

令和2年度 第2回広島市感染症対策協議会

令和2年7月21日

【日 時】 令和2年7月20日（月）19:00～20:00
【場 所】 広島市役所 14階第7会議室
【出席者】 小林 正夫、坂口 剛正、大毛宏喜、石川 暢久、吉岡 宏治、堂面 政俊、
増田 裕久、香河 和義、長岡 義晴、松原 啓太、南 心司

1 感染症に関する最近の情報

（1）新型コロナウイルス感染症に係る対応等について（資料1 P1～41）

令和2年6月30日（火）、本市で58日ぶりに新型コロナウイルス感染症患者が確認され、以降、7月19日（日）までに31例の患者が確認されている。全国的にも患者は増加傾向にあり、7月18日（土）までの国内の新型コロナウイルス感染症の感染者は24,132例、このうち、死亡者は985名となっている。

本市においては、感染拡大の防止対策として、感染者が確認された際には、国立感染症研究所が定めた「新型コロナウイルス感染症患者に対する積極的疫学調査実施要領」に基づき、当該感染者の詳細な行動歴の確認を行った上で、濃厚接触者あるいはその可能性のある者に対し、必要に応じてPCR検査及び最終接触日の翌日から起算して14日間の健康観察を実施している。

また、これまで文字が多く、分かりにくいといった声が寄せられていた本市ホームページについて、「広島市新型コロナウイルス感染症ポータルサイト」を開設し、グラフ等を用いて視覚的に分かりやすく患者の発生状況等を提供できるよう改善を図った。

今後も感染者数の増加が見込まれることから、引き続き、市民に対して「新しい生活様式」に基づいて行動するよう広報紙や市ホームページを通じて呼びかけるとともに、広島県や医師会等と連携を図り、帰国者・接触者外来の増設や機能拡充による外来診療体制の強化、検査体制の拡充・強化を図っていく。

（委員意見）

- ・ 引き続き、感染者の発生動向を注視するとともに、行政と医療機関とが連携して感染拡大防止に努めてほしい。
- ・ 報道発表時や市ホームページでの情報公開にあたっては、分かりやすく情報提供してほしい。

（2）令和元年度における本市の予防接種実施状況について（資料1 P42～43）

令和元年度における本市の予防接種実施状況を取りまとめた。

麻疹・風しんワクチンの接種率は、2期が95.3%と国の指針で示されている95%を初めて超え、これまでで最も高い接種率となった。

また、高齢者肺炎球菌ワクチンについては、平成26年度の定期接種化以降、最も低い接種率21.9%となった。今回の接種対象者は、5年前に接種機会があったにも関わらず接種していない者であり、接種に積極的ではない者が多いためと考えられる。

本市としては、今後も様々な機会を捉えて、引き続き制度の周知及び接種勧奨に努めていきたい。

(委員意見)

- ・ 引き続き、制度の周知と接種勧奨に努めてほしい。
- ・ 接種勧奨や制度の周知にあたっては、被接種者やその保護者が接種するか否かを適切に判断できるよう、対象となる疾患に関する情報等を分かりやすく伝えてほしい。

2 6月の定点把握対象感染症発生状況《公開》(資料2、3)

※感染症法に定められた感染症のうち、指定された医療機関のみが報告を行う感染症

3 全数把握対象感染症の発生状況《公開》

区分	病 名	令和2年6月分	令和2年7月分
		報告日 6/1～7/5	報告日 7/6～7/18 現在
2類	結核	22人 (結核17人、潜在性結核5人)	
3類	腸管出血性大腸菌	8人 (6/10(2人)、6/15、6/20、 6/25(3人)、7/2)	
4類	重症熱性血小板減少症候群	1人(6/29)	
	レジオネラ症	3人(6/11、6/29(2人))	2人(7/10、7/15)
5類	アメーバ赤痢	1人(6/22)	1人(7/7)
	カルバペネム耐性腸内 細菌科細菌感染症	1人(6/26)	
	クロイツフェルト・ヤコブ病	1人(6/29)	
	劇症型溶血性レンサ球 菌感染症	1人(7/3)	
	侵襲性肺炎球菌感染症	1人(6/10)	
	破傷風		1人(7/14)
	バンコマイシン耐性腸 球菌感染症		2人(7/14(2人))
	梅毒	5人(6/2、6/26、6/29、7/2 (2人))	2人(7/15(2人))
	百日咳	2人(6/15、6/24)	
指定 感染症	新型コロナウイルス感 染症	1人(6/30)	28人 (7/6、7/9(2人)、7/10(5 人)、7/11、7/12(3人)、7/13、 7/14(6人)、7/15、7/16(5 人)、7/17(2人)、7/18)

() は届出日

4 その他《公開》

次回開催予定日 令和2年9月23日（水） 14階第7会議室

【資料】

資料1：最近の感染症情報

資料2：6月の感染症の概要

資料3：定点把握五類感染症（月報対象）の長期的変動

1 患者情報

(1) 概要

定点からの内科・小児科・眼科系疾患の患者報告数は、6月は517人で、前月比1.77と増加した。

咽頭結膜熱、水痘は大きく増加、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、感染性胃腸炎、突発性発しんは増加した。

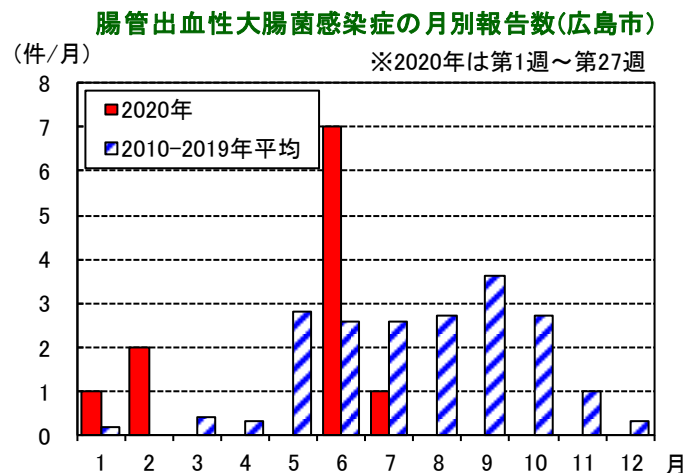
(2) 特記事項

- 新型コロナウイルス感染症の全国における1日当たりの感染者数は、緊急事態宣言が解除された5月25日に20人程度まで減少していたが、6月下旬から徐々に増加し、7月10日には400人を超えた。広島市においても、5月4日以降新たな感染者は発生していなかったが、6月30日から7月12日の間に13件の報告があった。

感染の予防、拡大防止のため、引き続き、身体的距離の確保、マスクの着用、手洗い、「3密」を避けるなどの対策を徹底するとともに、他の都道府県へ移動する場合は、移動先の自治体が出す情報を確認し、感染リスクが高い地域への往来を控えることが重要である。

また、大雨が多い時期を迎えており、避難所等に避難する際には、通常の持ち出し品に加え、マスクや除菌シート、体温計などを備え、避難所だけではなく災害の危険性の低い親戚・知人宅等へ避難することを検討するなど、新型コロナウイルス感染症を踏まえた対策を考えておく必要がある。

- 腸管出血性大腸菌感染症の報告が8件あり、今年の累計報告数は11件になった。例年、気温の高い時期に報告数が多くなっており、手洗いの励行や食品を十分に加熱するなどの感染症予防対策を徹底することが重要である。



(3) 6月の1類～5類感染症（全数報告）患者発生数

- 1類感染症：なし
- 2類感染症：結核 22件（患者：17件、潜在性結核：5件）
- 3類感染症：腸管出血性大腸菌感染症 8件
- 4類感染症：重症熱性血小板減少症候群 1件
レジオネラ症 3件
- 5類感染症：アメーバ赤痢 1件
カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症 1件
クロイツフェルト・ヤコブ病 1件
劇症型溶血性レンサ球菌感染症 1件
侵襲性肺炎球菌感染症 1件
梅毒 5件
百日咳 2件
- 指定感染症：新型コロナウイルス感染症 1件

(4) 今後の流行予測

新型コロナウイルス感染症の発生動向に注意が必要である。それ以外は該当なし。

2 検査情報

なし

5類感染症定点情報
(令和2年6月解析分)

1. 週報対象(第23週～第27週)

No.	疾患名	発生記号	報告数	定点当たり	今後の予測	No.	疾患名	発生記号	報告数	定点当たり	今後の予測
1	インフルエンザ		–	–		10	流行性耳下腺炎		4	0.16	
2	咽頭結膜熱	↑	33	1.39		11	RSウイルス感染症		1	0.04	
3	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	↗	82	3.43		12	急性出血性結膜炎		–	–	
4	感染性胃腸炎	↗	265	11.13		13	流行性角結膜炎		11	1.39	
5	水痘	↑	30	1.26		14	細菌性髄膜炎		–	–	
6	手足口病		4	0.16		15	無菌性髄膜炎		–	–	
7	伝染性紅斑		4	0.16		16	マイコプラズマ肺炎		1	0.14	
8	突発性発しん	↗	60	2.53		17	クラミジア肺炎		–	–	
9	ヘルパンギーナ		2	0.08		18	感染性胃腸炎(ロタウイルス)		–	–	

2. 月報対象(6月)

No.	疾患名	発生記号	報告数	定点当たり
1	性器クラミジア感染症	↘	41	4.56
2	性器ヘルペスウイルス感染症		9	1.00
3	尖圭コンジローマ		9	1.00
4	淋菌感染症	⇒	19	2.11
5	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	↗	19	2.71
6	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症		–	–
7	薬剤耐性緑膿菌感染症		1	0.14

発生記号

前月と比較しておおむね1:2以上の増減	↑	↓
前月と比較しておおむね1:1.5～2の増減	↗	↘
前月と比較しておおむね1:1.1～1.5の増減	⇒	⇐
ほぼ横ばい(発生件数少数のものを含む)	⇨	

予測記号

流行始まり	① 流 ↗
流行中	② 流 →
流行終息傾向	③ 流 ↘
終息	④ 終

全数把握感染症報告数(令和2年6月分)

第23週～第27週(6月1日～7月5日)報告分]

類型	疾患名	広島市		全 国	
		報告数	累積	報告数	累積
一類	1 エボラ出血熱	-	-	-	-
	2 クリミア・コンゴ出血熱	-	-	-	-
	3 痘そう	-	-	-	-
	4 南米出血熱	-	-	-	-
	5 ペスト	-	-	-	-
	6 マールブルグ病	-	-	-	-
	7 ラッサ熱	-	-	-	-
二類	8 急性灰白髄炎	-	-	-	-
	9 結核	22	76	1,885	8,760
	10 ジフテリア	-	-	-	-
	11 重症急性呼吸器症候群	-	-	-	-
	12 中東呼吸器症候群	-	-	-	-
	13 鳥インフルエンザ(H5N1)	-	-	-	-
	14 鳥インフルエンザ(H7N9)	-	-	-	-
三類	15 コレラ	-	-	-	-
	16 細菌性赤痢	-	-	2	53
	17 腸管出血性大腸菌感染症	8	11	392	831
	18 腸チフス	-	-	1	17
	19 パラチフス	-	1	-	7
四類	20 E型肝炎	-	5	37	254
	21 ウエストナイル熱	-	-	-	-
	22 A型肝炎	-	1	14	77
	23 エキノコックス症	-	-	1	8
	24 黄熱	-	-	-	-
	25 オウム病	-	-	-	4
	26 オムスク出血熱	-	-	-	-
	27 回帰熱	-	-	3	3
	28 キャサヌル森林病	-	-	-	-
	29 Q熱	-	-	-	-
	30 狂犬病	-	-	-	1
	31 コクシジオイデス症	-	-	1	3
	32 サル痘	-	-	-	-
	33 ジカウイルス感染症	-	-	-	1
	34 重症熱性血小板減少症候群	1	2	18	38
	35 腎症候性出血熱	-	-	-	-
	36 西部ウマ脳炎	-	-	-	-
	37 ダニ媒介脳炎	-	-	-	-
	38 炭疽	-	-	-	-
	39 チクングニア熱	-	-	-	3
	40 つつが虫病	-	-	21	101
	41 デング熱	-	1	1	41
	42 東部ウマ脳炎	-	-	-	-
	43 鳥インフルエンザ(H5N1及びH7N9を除く。)	-	-	-	-
	44 ニパウイルス感染症	-	-	-	-
	45 日本紅斑熱	-	-	50	105
	46 日本脳炎	-	-	-	1
	47 ハンタウイルス肺症候群	-	-	-	-
	48 Bウイルス病	-	-	-	-
	49 鼻疽	-	-	-	-
	50 ブルセラ症	-	-	-	1
	51 ベネズエラウマ脳炎	-	-	-	-
	52 ヘンドラウイルス感染症	-	-	-	-
	53 癩しんチフス	-	-	-	-
	54 ボツリヌス症	-	-	1	1
	55 マラリア	-	-	-	12
	56 野兔病	-	-	-	-
	57 ライム病	-	-	5	7
	58 リッサウイルス感染症	-	-	-	-
	59 リフトバレー熱	-	-	-	-
	60 類鼻疽	-	-	-	-
	61 レジオネラ症	3	8	220	758
	62 レプトスピラ症	-	-	-	1
	63 ロッキー山紅斑熱	-	-	-	-
五類	64 アメーバ赤痢	1	4	61	307
	65 ウイルス性肝炎	-	-	22	131
	66 カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	1	8	203	822
	67 急性弛緩性麻痺(急性灰白髄炎を除く。)	-	-	2	15
	68 急性脳炎	-	5	36	319
	69 クリプトスポリジウム症	-	-	-	2
	70 クロイツフェルト・ヤコブ病	1	2	17	72
	71 劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1	6	75	421
	72 後天性免疫不全症候群	-	5	108	512
	73 ジアルジア症	-	-	1	14
	74 侵襲性インフルエンザ菌感染症	-	2	15	174
	75 侵襲性髄膜炎菌感染症	-	-	-	11
	76 侵襲性肺炎球菌感染症	1	11	94	1,014
	77 水痘(入院例に限る。)	-	-	41	192
	78 先天性風しん症候群	-	-	-	1
	79 梅毒	5	34	654	2,923
	80 播種性クリプトコックス症	-	-	18	67
	81 破傷風	-	-	9	52
	82 バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症	-	-	-	-
	83 バンコマイシン耐性腸球菌感染症	-	-	17	69
	84 百日咳	2	38	115	2,564
	85 風しん	-	-	7	83
	86 麻しん	-	-	-	12
	87 薬剤耐性アシネトバクター感染症	-	-	-	3
指定	88 新型コロナウイルス感染症	1	85	※ 1,715	※ 18,394

※新型コロナウイルス感染症の全国報告数は、厚生労働省ホームページから引用(空港検疫及びチャーター便帰国者を除く)